No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

広島県府中市高木町1565番地

高月ナマコン株式会社

配合計画者名　高垣　泰博

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月21日～6月10日，9月21日～11月30日。左記以外の期間は備考欄に記述（標準配合）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰの増大量	－ cm
	空気量	4.5％		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq ％	－

混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲％
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	広島県府中市荒谷町	A	化学法	5以下	2.95	－	2.65	5.0±2.0
	②	加工砂	仁多郡奥出雲町産（中）	A	モルタルバー法	5以下	2.75	2.50	2.57	3.0以下
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石4020	広島県府中市荒谷町	A	化学法	40～20	7.95	－	2.70	0.5±0.5
	②	砕石2010	広島県府中市荒谷町	A	化学法	20～15	7.00	－	2.70	0.5±0.5
	③	砕石1505	広島県府中市荒谷町	A	化学法	15～5	6.35	－	2.70	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリック SV10	種類	AE減水剤（標準形Ⅰ種）	Na_2Oeq ％	1.0
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	地下水・上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材 －		ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
284	－	－	162	509	329	－	410	359	256	－	3.12	－	－

水セメント比	57 ％	水結合材比	－ ％	細骨材率	45.7 ％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（容積混合）	細骨材60：40 粗骨材(4020)40：(2010)35：(1505)25

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更致します
夏期適用期間の混和剤入替に伴い、1週間位前から混和剤遅延形もしくは標準形を使用します。
[夏期] 6月11日～9月20日：標準配合に対し、AE減水剤＋20%，高性能AE減水剤＋10%
[冬期] 12月1日～3月20日：標準配合に対し、AE減水剤－25%，高性能AE減水剤－15%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB −
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	− kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	− ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	− kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	− kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	− cm
	空気量	4.5 %		

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10　%

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3 \cdot V}{100}} = 1.21 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.25$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.25 \times 24 = 30.0$ N/㎟

よって　m = 30.0 N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　$m = -16.2 + 26.5 \times C/W$

$W/C = 26.5 \div (30.0 + 16.2) \times 100 = 57$ % ≦【60%(上限値)】

∴W/C = 57 %

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 162 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C = W ÷ (W/C) × 100 = 162 ÷ 57 × 100 = 284 kg/m³

Cv = C ÷ 密度 = 284 ÷ 3.04 = 93 L/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.655 m³/m³　実積率 = 58.0 %

Gv = 0.655 × 1000 × 58.0 ÷ 100 = 380 L/m³

G1v = Gv × 40.0 % = 152 L/m³　G1 = G1v×表乾密度 = 152 × 2.70 = 410 kg/m³

G2v = Gv × 35.0 % = 133 L/m³　G2 = G2v×表乾密度 = 133 × 2.70 = 359 kg/m³

G3v = Gv × 25.0 % = 95 L/m³　G3 = G3v×表乾密度 = 95 × 2.70 = 256 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 680 = 320 L/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 192 L/m³　S1 = S1v×表乾密度 = 192 × 2.65 = 509 kg/m³

S2v = Sv × 40.0 % = 128 L/m³　S2 = S2v×表乾密度 = 128 × 2.57 = 329 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 45.7 %

(10)単位混和剤量(Ad)　　Ad = C × 添加率 = 284 × 1.1000 % = 3.12 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
284	−	−	162	509	329	−	410	359	256	−	3.12	−	−

水セメント比	57 %	細骨材率	45.7 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材60:40 粗骨材(4020)40:(2010)35:(1505)25

備考